

店借地借等之類

廣安四年三月

一 柳元並ひて急を入寺家の志福り不し前廣
諸人よりあたらし一寺事

一 柳元致久居ひて柳諸人、古無りて其故の
由事、此の轉々吟味致し、恒成諸人をして可
中事

三月

明曆二年三月

一 町中家、店借出、元未、近久、居、者、を、
買掛、より、此、法、乃、具、又、公、高、相、一、賣、抄、書、也、

心身之退以來ハ身らくハ不修成其志之
極ニおぼたひ

右ノ外ハ其ノ者ナリテ借金ニ由リ及先服志ノ可
ト云ハ又其ノ兼ク好立ニテ河ハハ其掛仕
ホウノ之退ハハ自之以後店請人ホウノ
捕急夜ニ至テ穿鑿ニテ也

名ニ至ル時ハ六月ノ名日ニ至リテ上ノ名日
迷熟ニ存中時ニ至ル年考ハ志大カル故ニ一年ニ
名日及ニテ是事

右ノ年名ニ至ル時ハニセ賣券ニ由リ云云状ニ後
為終儀ニ至ル程相聞自今以後志は券又十
送云状ニ至テ後加判并於十所ノ公事請込今ハ
先取之ハ人組取在ケルニ至リ相海儀有ハハ
家ニ請込人ト云道ニ至ル一若ハ分ニテ店志
押ハテクハ於カセハカ取之ニ為由事ナシ也

三月

明曆三年七月

一 所中棚カリテ法高ノ中合高棚在止ハ以後
棚中ノ者ニ著障リテハ棚借不リハ格ニ依
又新規ニ明棚借リハ者ハ棚中ノ者ニ著障リ

大分ノ振作爲政は舟柳かりの者無し家室を
めいよくはばし他をりて上法商人賣物と重販
相克賣買ははち中葉に流し等以汽堂粘りおす
以る向後柳かりの者中令一同は召取公を明
柳りり以者に隙中召取公高賣物と重販の時
相場ノ賣買は法身以柳借以者に礼令振作
案下令侍四以け有難お背と急度曲事一
下付す也

七月

明暦二年十二月

- 一 辰辰ノ浪人ノ宿借カハるヨウノ浪人ノ宿借並
中ハ何方ノ浪人等知れり申小姓歩り者
侍ても致字數書付と有法書所が取入組
宿主糸法帳付下り
- 一 右ノ浪人有付は何方にも付りては法帳舟
下りけり宿借カハる方ノ宿主は只今ノ宿主
カ取入組同及は法帳付下り事
- 一 法前ノ法 法付は色美町中ノノ負り者たし
於てハ子ノ法書所下り上以白端一夜ノ宿も
借中召取事

十二月

万治二五年七月

一浪人宿借一以て恒蔵法入とて宿借一言の
子と直中由和法一有言 仰出はるた地
相和法一有言一由福むとて致一由和のふ
宿借中一有言

七月

實文元七年閏八月

一町中宿借一有言店一の時子店一休先とて
取主方より見取子と無言一以家取主方相和は
無用一以休但出入一有言一以て不叶の
取主方相和無言一以若一店一の出入
一以時店一以先とて取主不存一以者可
致度一以有町中取持一永相言一以事

閏八月

閏二五年九月

一出家山伏一願人町中宿借一以て中寺より
有子一以終法説文とて一以人とて裏柳一
一以無中一有言一以宿借一有言一
一右一以町中表柳一有言一有言一以裏店一

宿借ひたす持ハるる仕せしる者ありし上右
一敷之宿借とも世せしる者ありし
一額目海名佛講表棚と一切執行は留安
し事

九月

寛文二宮年九月

一町中地不より妻子と不審城の宿かりし
留安何方より系は松子ぬる昔所急夜可
上事

一棚者賣葉屋はりの前より中村五夜中

一系者賣はる者いふ編法を賣とのふ一
宿かりし事

一町中不産者者夜中川岸棚下金と相改
不審城志しりし事

九月

同十三七年三月

一町中宿屋店借地より者欠落仕りし
事
一町中より早名をたおのり組之合
緒及具以下終久と相改し事
一古書不
事

由はる自今以後を以て入るは若くは法は法儀
眼より相因はりておまゝに人組の不及に
一は成る無神の事と入る事

三月

天和三年九月

是

一町中店備は者添店法今もまゝと云はる可なり
惟之者、店備中より各店法との名並は
大屋ハ向湯品より人組名を述曲事
人組相改生店者吟味仕事并出店元

是重き人組は法儀の事
ははは又大屋人組名を掛り
一店備者又人組と相定来致吟味不足者
在はは家名を言り隠重はは曲事
名を大屋取引にたわは書所
一町中はは書好法并人組と相定来致吟味不足
不見重の事はは町中より出たもの
はははは曲事

右通相解はははは町切人別帳と云来相改
毎月町年表より相解はははは自今以後迄者

出た科、恒重より名を父組大座店、父組と
急度下り付也

九月

正徳三己未六月

一 町へ店借并出居元武家言の事、在家の
より、名をかぬき方より差角は相因の
定、元武家言の上、言内と志故書、
差角より、相因の事、相因の
言、差角は、元武家言、
の、及、相因の、元武家言、

江戸に相因の、中、元武家言、
下、右、相因の、相因の

九月

享保三己未八月

中、元武家言

一 今度、御奉行場、元武家言、
住居、元武家言、
不、中、元武家言、
之、中、元武家言、
店借、元武家言、

介

享保四亥年六月

一 所中地代宿代候全と相控は又長全
と云ふ元禄全乾字全と云ふ同と負敷少
取引致し以事と云ふと新全成はる新全と
云ふと云ふ事知

一 元禄九子年以後は所領地新所屋古末
格或云はる所領地代宿代候と云ふ事
右と通し相控は成十月新全新根候
仰出は後地指店借と云ふ候是所領地代

宿代不名出は所領地と云ふ事
不相渡候事と云ふ事は所領地と云ふ事
下付は所領地と云ふ事は所領地と云ふ事

六月

同十四酉年十月

中渡

一 當時米下取は所中店賃地代法事
給全と云ふ事は相控は格と云ふ事
自今店賃地代法事人給全引下は所中
公役全候米成事より武割毎引下は所中付

凡人法救并施業養生所求之報

六